

会長退任のご挨拶

東京理科大学 齊藤 泰和

水素エネルギー協会・会長として2年間、事務局・理事長・編集委員をはじめ会員皆様のご支援をうけ、新エネルギーとしての水素への期待が高まるなか、本会の維持・運営にあたることができました。厚く御礼申し上げます。

期間中、アルゼンチンベノスアイレスで開催された第12回世界水素エネルギー会議で、NEDOのWE-NETプロジェクトに対し日本が学会賞を受けたこと、韓国大田での第5回日韓水素エネルギー合同シンポジウムに日本から多数参加し、先方のバイタリティもあわせ大変な盛況であったこと、燃料電池研究会太田健一郎先生のお力添えを受け、「自動車と家庭用燃料電池」の特別講演会が収入の面でも成功を収めたこと、そして2004年第15回世界水素エネルギー会議の主催国として名乗りをあげると決めたこと、等、いろいろございました。

特に最後に挙げた案件は本協会としては是非実現したいところで、若く実力ある新会長太田健一郎先生のご活躍を期待いたします。その期間は、水素エネルギーの実用化へ向けて一步一步進むときであり、またHESSの発展のときでもあってほしい、と願っております。

会長就任のご挨拶

横浜国立大学 太田健一郎

このたび齊藤泰和先生の後を継ぎまして、会長という重責を仰せ付かりました。

水素エネルギーは私共が学生の頃からクリーンエネルギーとして注目はされていましたが、これを水から作り出すことの困難さから、しばらく先のことと思われがちでした。しかし、最近では様子が少し変わってきているように思います。身の回りを振り返ってみても、環境問題は、局所的、地球レベル共々のつびきならぬところまで来ております。環境に優しい水素を利用する自動車への要請はその代表的な一つです。自動車に限らず、クリーンエネルギー、水素エネルギー技術に関して日本は世界をリードすべき立場にあると思います。その意味からも、2004年横浜で開催予定の第15回国際水素エネルギー会議は、是非とも成功させるべく頑張りたいと思います。

エネルギーシステムの改変は短期間で実現できるとは思いません。少しずつ、可能なところから進んでいくと思われまふ。水素エネルギー協会もこの変化に際して、学問の場として、産官学連携の場として重要な役を担っていきたいと思っております。齊藤前会長とは異なり、浅学、若輩の身であり、充分なことが出来るとは思いませんが、一杯努力するつもりです。会員各位のご協力をお願いする次第です。